

2025年12月18日 NO.145号

障害児・者サークル通信



発行：性教協★障害児・者サークル事務局

一般社団法人“人間と性”教育研究協議会（性教協）本部・事務局

〒151-0071 東京都渋谷区本町1丁目7番16号 初台ハイツ1006号

HP <https://shogaiji-sha.seikyokyo.org>

- ミニ連載：原田文孝さん実践に学ぶ一障害の重い人たちにとっての性教育とは一 1
- 出会いの場「アウカフェ」を行って 3
- 第6回「支援者・保護者のための障害児・者性教育セミナー in ふくい」 4
- ここから CAFE ⑥「これがおすすめ性教育・性の絵本」実践編 5
- 2025年度サークル学習会（肘井理香さんの実践検討会）で学んだこと 6
- 「はだめ規定」の撤廃を求めた署名（4万を超え）文科省に提出／
「包括的性教育」の実現をめざす 集会 & 第3回総会・報告 7
- 事務局よりお知らせ & 「第31回 障害児・者性教育セミナー in 仙台」へのお誘い 8

原田文孝さん実践に学ぶ一障害の重い人たちにとっての性教育とは一

今回から連続2回のミニ連載として、「原田文孝さん実践に学ぶ一障害の重い人たちにとっての性教育とは一」を始めます。原田文孝さんは、1956年に岡山県で生まれ、1979年の養護学校義務制開始の年に肢体不自由養護学校の教員として着任しました。その後、2010年に施設訪問学級に異動し、退職後はNPO法人ささゆり会を設立し、障害の重い人たちの生活介護、放課後等デイサービス、居宅介護の事業を始められました。このような経歴のなかで、原田さんは障害の重い人たちの性教育という視点を大切にしながら、今日まで実践を続けてこられました。そこで今回の特集では、原田さんの実践を通して、障害の重い人たちにとっての性教育について、理解を深めたいと考えています。

石橋君（以下、仮名）は、気管切開をして人工呼吸器を付けています。長い間入院していて、私は病院の集中治療室へ訪問教育に行っていました。石橋君は、手足やからだへのふれあい遊びは好きなのですが、顔に触れられることは大嫌いでした。絵本『ちゅっ ちゅっ』は、動物のお母さんが子どもにキスをするというお話です。私は、絵本に合わせて石橋君の手のひらに「ちゅっ ちゅっ」とキスをしました。石橋君は、とっても喜びました。石橋君があんまり喜ぶので、私は石橋君のほっぺに「ちゅっ」をしたくなりました。顔に触れられるのが大嫌いな

ので、絶対に嫌がるだろうとわかっていたのですが、ついやってしまったのです。そうしたら、なんと石橋君が笑ったのです。

石橋君はなぜ笑ったのかを、授業を見ていたお母さんと話をしました。2人の結論は「本当は触れてほしかった」ということでした。石橋君は2歳で発症して、急激に病状が進行したようです。気管内挿管や口腔内・鼻腔内吸引、鼻からチューブを入れての経管栄養が始まりました。石橋君は、この顔のところに施される医療的な処置に恐怖したのだと思いました。この恐怖が、トラウマのようになり顔に触